

釜山の植民地遺跡フィールドワーク

足立 龍枝

海雲台のB&Bホテルを靈山大学のスクールバスで出発。案内と説明は釜山大学の車詰旭先生。東萊に着くまでの30分間は、釜山の歴史の講義から始まった。

① 東萊別荘

東萊温泉の歴史は古く、18世紀ごろから公衆浴場が存在していた。

日本人は19世紀後半に、その浴場の女湯の一部を借りて営業したのが始まりで、豊田福太郎の『蓬莱館』など次々と旅館業者が進出していった。

釜山と温泉場を結ぶ軽便鉄道も開通して、日本での成功例を東萊でも取り入れようと実践したようだった。湯煎餅を売り出したというポスターがある。宝塚・有馬温泉の炭酸煎餅を連想するが……。

一方、釜山で儲けた富者たちは競って別荘を建てていくことになる。見学した『東萊別荘』は、釜山一の富者、迫間房太郎の2番目の別荘として建てられた。

敷地3000坪、建物200坪の純日本式木造2階建。日本から建築資材を取り寄せ、大工を呼び寄せて建てたという。

解放後は米軍政体養施設として使用、現在は払い下げられ、レストランとして営業している。食事をすれば屋内も見学できるようだ。日本の皇族が使用したという石造りの浴槽が売り物らしい。庭園もすばらしい。屋外に松の木や石塔



を建物内に取り入れた日式レストラン『松亭』があった。最近建てられたものようだ。

ところで、迫間一族は解放後、10隻以上の船に貴重品や穀物を積んで日本に帰ったという。

② 金剛公園

金井山の麓にある金剛公園（元金剛園）は、蓬萊館の主人である豊田福太郎が『東萊南門』を購入、移築することから始まったが、順調にはいかなかつた。それで、東原嘉次郎が個人の庭園として造成し、一般に公開し、東萊邑に寄贈するという形に変わつていった。

温泉街の端に門楼『望美樓』『東萊都護衙門』が見える。門をくぐり、少し行くと現在の金剛公園の正門があり、金井山から下りてきた登山客や元気のいい数人のお年寄りに会う。

門からなだらかな坂を500メートルぐらい上つて行くと、1636年建立の『東萊獨鎮大衙門』に着く。



岩の間を更に上ると、温泉川にかかる石橋『利涉橋碑』そして、倭軍の侵攻によって廃墟になった東萊邑城を再建した功績を称えた『萊州築城碑』が目に入る。

なぜ東萊中心部にあった建物や碑石が金剛公園に集められたのか。

『利涉橋碑』から少し上ると、巨大な一枚岩でできた日本語の碑文がある。解放後、セメントで消されたようだが、車先生から送つてもらった文字を読んでみた。東原嘉次郎が金剛園を東萊邑に寄贈した由来を刻み、後世に伝えようとしたものであった。

つまり、大門や碑石は、東原が財を投じて本来あるべきところから金剛園に集めてきたものだったのだ。その年は1931年。寄贈したのは、1940年、皇紀2600年だった。

当日は通らなかったが、公園内に任辰倭乱犠牲者の『義塚』もある。東萊南門外で発見された遺骸が、植民地時代、別のところに移葬され、そして金剛公園に移された。6基（7基とも言われる）が1基のみになっている。

日本軍による犠牲者が、日本人の作った公園に葬られていることになる。植民地時代の理解しがたい象徴的な場所のように思われる。

『東萊別荘』『金剛公園』、東萊駅近くの『東萊高校』（抗日運動碑）と『禹長春記念館』を、東萊エリアフィールドワーク半日コースにいかがだろうか。

東萊には「パーチョン」の店が多い。

③ 臨時首都記念館

地下鉄駅でいうとチャガルチ駅の次、土城洞駅に近いところにある。

慶尚南道各庁が晋州から釜山へ移転したことについて知事官舎が建てられた。

解放後も知事官舎として使用されていた。朝鮮戦争が起こり、首都がソウルから大田・大邱・釜山へ移り、それに伴つて大統領官邸も釜山に移転。1950年8月から53年7月まで官邸として使われた。道知事と同居していたわけである。一説に李承晩は7月2日から既にここに住んでいたとか。

1984年からは釜山市が管理している。

車先生のレジュメを読むと、臨時首都記念館としてだけでなく、むしろ、解放前ここに道庁や知事官舎があり、それらは日帝の収奪と搾取の中心であった。

そのことを次世代に伝えるべき役割も大いにあると訴えられていた。



④ 40階段

セミナー主催でないフィールドワークでも何か所か行くことができた。

中でも『40階段』には、むくげ通信211号を手に最初に訪れたところだ。

通信の写真と少し変わっていた。階段の真ん中あたりに、戦後の街の様子を表した等身大の銅像の一つ『アコーディオンを弾くジョシ』があった。周りの雰囲気にぴったり合っている。



ジョシが座している後ろには石造りのスピーカーが設置しており、間を通るとセンサーが働き『慶尚道アガシ』のメロディが響いて来るという仕組みになっていた。

『40階段と博物館』から西方向に歩くと、見応えのある資料館等が続く。『白山記念館』『釜山近代歴史館』（元東拓釜山支店）・・・市場・・・『元慶尚道各庁』（現東亜大学）『臨時首都大統領官邸』・・・龍頭山周辺をゆっくり見学して一日コースにいかがでしょう。

食事はチャガルチが近い。

(チャガルチ名物
ケーブル 刺身)



倭乱・植民地時代・朝鮮戦争・・・日韓の歴史学習に欠かすことのできない重要な場所が、釜山には限りなくあるようだ。

以上、参考にした資料は、車先生のレジュメ・韓国温泉物語（竹国友康著）・韓国の「昭和」を歩く（鄭銀淑著）です。

2005.9.15